

**科学研究費助成事業 研究成果報告書**

平成 27 年 5 月 18 日現在

機関番号：15201

研究種目：基盤研究(B)

研究期間：2010～2014

課題番号：22401028

研究課題名(和文) アジア人大学生のための英語教授法についての実践的研究

研究課題名(英文) Practical Research into the Methodology of Teaching English to Asian University Students

研究代表者

Menking Scott. R (Menking, Scott)

島根大学・法文学部・准教授

研究者番号：10346372

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 8,200,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では、アジア人同士の国際コミュニケーションで使用される国際言語としての英語、東アジア英語などの可能性について考察するために、11カ国の大学生を対象にアンケート調査・インタビュー調査を行った。それぞれの調査から、日本以外のアジア諸国の学生の多くが、日本人は英語が上手でないという認識を持っていることが分かった。これについては、日本ではカタカナ英語が普及していること、また、日本人は外国人とのコミュニケーションに積極的でないということが理由にあることが示された。また、東アジア、東南アジア、又は自分の国では、最も役に立つ国際語は英語だと考える東南アジア・東アジアの大学生が多数を占めた。

研究成果の概要(英文)：To explore issues such as students' perspectives on which languages to use for international communication in Asia, English as an International Language, and the possible existence of a kind of English called East Asian English, a questionnaire was administered to university students in 11 countries. The study found Asians feel Japanese people cannot speak English well. The primary reasons for this are the use of katakana English and Japanese people who don't actively try to communicate. In spite of this, because of the strength of the Japanese economy and the popularity of manga and anime, Asian and American university students are interested in studying Japanese language and culture. The study also found university students in both East Asia and Southeast Asia believe that in East Asia, Southeast Asia, and their own countries, the most useful international language is English.

研究分野：国際言語としての英語で日本人とアジア大学生のコミュニケーション

キーワード：言語 国際コミュニケーション 国際言語としての英語 英語教授法 東アジア英語

## 1. 研究開始当初の背景

本研究は、5つの主要な理由から必要不可欠である。

- (1) 本研究は、研究対象に、日本、東アジア、東南アジア及びアメリカ合衆国を含む。すなわち、多言語多文化国家、英語が第一言語で使われてい国「Inner Circle」、英語が第二言語で使われてい国「Outer Circle」、英語が外国語で使われてい国「Expanding Circle」も含む。国際言語としての英語(EIL)に関する先行研究は、主にケーススタディー(例:対象者5名)であった。本研究は、量的データをもとにEILの課題・展望を論じようとするものである。
- (2) 先行研究では、1~2カ国に焦点を当て実施された傾向があり、かつ、アジアが対象となっていないことが多い。この分野の指導的研究者であるKachru氏は旧イギリス植民地にて大規模調査を実施したが、その研究は日本のような国々(つまり外国語として英語を学ぶ環境やその文化)に関しては正確に反映されていない。本研究は、日本人と他のアジア諸国をフィールドとすることで、アジア人同士の異文化国際コミュニケーションの課題について検討する。
- (3) アジアのEILに関しては、体系的なデータはなく、統計的な分析もできていない。したがって、(1)世界のグローバル化に進み英語の発達が学生の英語に関する感覚、学習態度等及ぼす影響、(2)各アジア国の英語学習者の英語能力の違いに関する功績に与える影響など、データに基づいた考察ができていない。本研究は、この点を克服することを目指す。
- (4) 英語は化学、科学技術、学術、観光などの分野では既に共通言語である。現在・未来の日本人学生たちがグローバル社会で活動するために、更なる英語力の向上

が求められている。とくに、アジア諸国の人びととのコミュニケーション、文化理解は、これからの日本人にとっても重要になるだろう。そこで、本研究は、効果的な異文化間のコミュニケーションを妨げる(促進する)要因についても分析する。

- (5) 国際的に、中国の重要性と影響力は年々増している。本研究は、アジア人の共通言語としての中国語への移行可能性に対する学生の認識を観察する。

## 2. 研究の目的

- (1) EIL及びアジアにおける国際的なコミュニケーションに対する学生の認識や信念を調査する。
- (2) アジア人の日本人に対する認識を理解し、日本人とのコミュニケーションにとって重要なポイントを発見する。
- (3) 日本を含むアジア各国学生間の、互いの国についての認識の差について定量化する。統計的データの分析を通して、アジアにおける共通言語が英語から中国語へ移行する可能性について、も調査する。
- (4) 教育的変化(例:カリキュラムの改訂、教育者の訓練の改正、新しい教科書など)を正確に記述し、外国語として英語の習得及び日本における英語教育の改善を考慮する。

## 3. 研究の方法

- (1) 研究者が各国(計13か国)に尋ね各大学での連携研究者と:

アンケート調査を行った。

アンケート調査の調査対象者の5%以上の学生にインタビューした。

教職員にインタビューした。(英語の教え方、カリキュラム、教材、カリキュラムの改訂等について)

授業見学調査を行なった

各国では、さまざまな地域(都市・農村)で

調査を行った。

- (2) 日本における調査では：  
インタビューを掲載された。  
アンケート調査のデータをソフトに入力してから分析した。  
定性及び定量分析を行った。
- (3) 結果を：  
学会、国内外大学、日本内外国語で日本案内ボランティアグループ会で発表した。  
日本内外の専門雑誌に発表した。

#### 4. 研究成果

当初の計画では、13カ国でアンケートを配ったり、インタビューしたりする予定だったため、調査対象者は約5,850名（13カ国\*450名）、インタビュー調査の調査対象者は325-390名（13カ国\*25-30名）としていたが、結果的に5年間で、73大学（11カ国）でアンケート調査（計画の2倍、約12,000名の大学生）やインタビュー調査（計画の3倍、約1,100大学生）を行った。（科研の準備のため、さらに、3カ国で約アンケート調査対象者が2,000名、やインタビュー調査対象者が80名なので、プロジェクト計：アンケート調査対象者が約14,000名、インタビュー対象者が約1,180名だった。）

又は当初の計画では、5年間で11回の発表を行う予定だったが、結果的に国内外計45回発表した。

主要な結果は以下の通りである。

- (1) 東アジア、東南アジア、又は自分の国では、最も役に立つ国際語は英語だと考える東南アジア・東アジアの大学生が多数を占める。
- (2) 日本以外のアジア諸国の学生の多くが、日本人は英語が上手でないという認識を持っていることが分かった。これについては、日本ではカタカナ英語が普及していること、また、日本人は外国人とのコミュニケーションに積極的でないという

ことが理由にあることが示された。一方、アジア諸国の学生やアメリカの学生は、日本の経済力の強さや漫画、アニメがきっかけで、日本の文化、言語などに興味を深くもつようになったということも分かった。

- (3) 日本人の大学生が韓国人や中国人に話しかける場合、会話がなされる場所（国）によって言語を選択するが、アジアの大学生の国による、この態度が違うこと。例えば、香港出身の大学生は、どこにいたとしても、韓国人と日本人に話しかけるときは英語でコミュニケーションをする、台湾人の大学生は、相手が日本人の場合と韓国人の場合で、英語を使うかどうか、統計学的に有意差が認められ、韓国人の大学生が日本人に話しかける場合、自分が韓国にいても他国にいても（英語が話される国でも）日本語で話しかけるという傾向がある。
- (4) 「（失礼だったり、丁寧すぎたりしない）適切な丁寧さをもつ英語の使い方を学びたい。」という質問に対して、日本人に比べてタイ人、カンボジア人、マレーシア人、フィリピン人、中国人は賛成する傾向がある。
- (5) 「英会話のとき、話の「間」が気づまりに感じるがあっても、アジアの人々はその間を埋めるスキルを持っていない。」に対して、アジアの大学生の半数が賛成しなかった。
- (6) マレーシア、シンガポール、フィリピン（つまり英語が第二言語の国「Outer Circle」）に育った学生は、英語教育や国の経済が似ていると言われるのに、英語に対する感覚が（母国語に対する感覚と）同じ場合は少なくない傾向がある。また、「英会話のとき、話の「間」が気づまりに感じるがあっても、アジアの人々はその間を埋めるスキルを持ってい

ない。」に対して、シンガポールの学生は 46 パーセントも否定したのに対し、マレーシアの学生は 27 パーセントしか反対していない。

- (7) 日本の英語教育カリキュラムの改訂について、以下の点を提言する：

自分にとっての常識をはじめ、他のアジア人にとっての常識を理解することを努める。自分の常識にとらわれているために、自分が相手にとって失礼となる場合についても考えることができるようにすることが重要。国際言語としての英語がいつでも使えることが重要。同時に、相手はそう思わないことを深く理解することが重要。

国内で外国人とコミュニケーションチャンスを増やすことが重要。

英語で話す自信を持つことが重要。

「英会話のとき、話の「間」を埋める、適切な丁寧さをもつ英語の使い方の具体的なスキルを身につけることが重要。

## 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計 4 件)

Menking, Scott. Thai and Japanese University Students: Usefulness of English, *English Today* 122, 査読有, 31(2), 2015, 50-56. doi:10.1017/S0266078415000103

Lieske, Carmella. Thai students: EIL and situational language choice. *Thai TESOL Journal*, 査読有, 27(1), 2014, 1-13. ISSN 2286-8909.

Menking, Scott. Intelligibility: Japanese and Thai Tertiary Students' Perspectives. *Studies in Language and Culture: Memoirs of the*

*Faculty of Law and Literature, Shimane University*, 査読無, 37, 2014, 95-111.

Menking, Scott. American University Students: The Necessity of Foreign Languages. *Studies in Language and Culture: Memoirs of the Faculty of Law and Literature, Shimane University*, 査読無, 35, 2013, 107-126.

[学会発表](計 45 件)

Menking, Scott. *University Students: The Usefulness of English*, 40<sup>th</sup> Annual Japan Association for Language Teaching (JALT) International Conference on Language Teaching and Learning & Materials Exhibition, 2014-11-22. 「Tsukuba International Congress Center (Ibaraki, Tsukuba)」.

Lieske, Carmella. *Always English? Location and Interlocutor*. 40<sup>th</sup> Annual JALT International Conference on Language Teaching and Learning & Materials Exhibition, 2014-11-24, 「Tsukuba International Congress Center (Ibaraki, Tsukuba)」.

Menking, Scott. *ASEAN University Students: The Usefulness of English*. International Association for World Englishes (IAWE) 2013, 2013-11-16, 「Tempe, USA」.

Lieske, Carmella. *Shifting to a Global English Model: Student Views from Outer and Expanding Circles*. 19<sup>th</sup> Conference of the International Association for World Englishes (IAWE) 2013, 2013-11-17, 「Tempe, USA」.

Menking, Scott. *Japanese and Chinese Views on East Asian English*. 39<sup>th</sup> Annual Japan Association for Language Teaching (JALT) International Conference on

Language Teaching and Learning & Materials Exhibition, 2013-10-27, 「Kobe Convention Center (Hyogo, Kobe)」.

Lieske, Carmella. *ASEAN: Need for Sociolinguistic Competence*. 39<sup>th</sup> Annual JALT International Conference on Language Teaching and Learning & Materials Exhibition, 2013-10-26, 「Kobe Convention Center (Hyogo, Kobe)」.

Menking, Scott. *Chinese Students' Views of EIL*. 33<sup>rd</sup> Thailand TESOL International Conference, 2013-1-26, 「Khon Kaen, Thailand」.

Lieske, Carmella. *East Asian Students' Beliefs about EIL and East Asian English*. 33<sup>rd</sup> Annual Thailand TESOL International Conference, 2013-1-25, 「Khon Kaen, Thailand」.

Menking, Scott. *Chinese Students across East Asia: Views on EIL*. 18<sup>th</sup> Annual Conference of the International Association for World Englishes (IAWE 2012), 2012-12-8, 「Guangzhou, China」.

Menking, Scott. *Interacting with East Asians: University Students' Varying EIL Beliefs*. 20<sup>th</sup> Annual KoTESOL International Conference, 2012-10-21, 「Seoul, South Korea」.

Lieske, Carmella. *Is English the Language University Students from Hong Kong Want to Use During Asian and East Asian Communication?* 16<sup>th</sup> World Congress of Applied Linguistics (AILA 2011), 2011-8-25, 「Beijing, China」.

Menking, Scott. *Chinese University Students' Views of English as a Language for Communication in East Asia*. AILA (International Association of Applied Linguistics) 16<sup>th</sup> World Congress of Applied Linguistics, 2011-8-24, 「Beijing, China」.

Menking, Scott. *Taiwanese University Students' Views of English as a Lingua Franca*. Fourth International Conference of English as a Lingua Franca (ELF4), 2011-5-27, 「Hong Kong, China」.

Lieske, Carmella. *Location and Interlocutor: Language Choice by Hong Kong Tertiary Students*. Fourth International Conference of English as a Lingua Franca (ELF4), 2011-5-26, 「Hong Kong, China」.

Lieske, Carmella. *Applying Global Trends into the Asian Context*. 5<sup>th</sup> Invited: Plenary Speaker. Annual VUS-TESOL Conference; Global Trends and Local Practice in ELT: Options and Opportunities, 2010-10-17, 「Ho Chi Minh, Vietnam」.

他 30 件。

〔図書〕(計 件)

〔産業財産権〕

〔その他〕

ホームページ等

<https://sites.google.com/site/intcommasiaresearch>

## 6 . 研究組織

### (1)研究代表者

Menking Scott R (メンキン スコット )  
島根大学法文学部准教授  
研究者番号 : 10346372

### (2)研究分担者

( )  
研究者番号 :

### (3)連携研究者

Lieske, Carmella ( リスキーカーメラ )  
島根大学外国語教育センター准教授  
研究者番号 : 50635133